

2 0 0 4 年 9 月 1 4 日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
広報部 03-3664-5697  
mail address : koho@fuji-keizai.co.jp

## リモート監視関連市場の調査を実施

2 0 0 6 年 予 測

リモート監視関連市場全体は、3170億円(03年の109%)04年以降ほぼ3%の成長を継続  
ユニット部品では、Webカメラが高い伸長 60億円規模(03年の171%)  
サービスでは、家庭向けリモート監視市場が本格化 473億円(03年の126%)

総合マーケティングビジネスの㈱富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、今年6月から8月にかけて、画像を利用したシステムで広く注目されているリモート監視関連市場の動向を調査・分析した。このほど、この調査を報告書「2004リモート監視関連市場徹底総調査」にまとめた。

### <調査の前提>

インターネットを活用したユビキタスの概念は、今後の生活基盤の一端を担うことは間違いない。このユビキタスを実現するシステムのひとつとして大きく期待されているのがリモート監視である。

その理由は、(1)企業サイドのコストリダクションニーズと合致し、各種産業界でのリモート監視ニーズが年々高まっている。(2)従来ハードを中心に展開してきたメーカーにとって、単に製品を売るだけではもはや収益を生み出すことが非常に困難となっており、その付加価値化の方向のひとつとして、リモート監視機能の付加が進展している。(3)家庭向けリモート監視が、従来の防犯・防災に限定されず、より複合機能的に活用する動きが活発になり始めた。特に電力・ガス・通信といったインフラ関連企業の参入が先行しているのに加え、家電メーカーも本格的に取り組みを始めている。今後、家庭向けリモート監視は家電業界も巻き込んで進展すると予測される。

また、近年の技術革新と多様化するユーザーニーズにより、携帯電話をより広範囲に利用するシステムの構築も更に進展している。加えて従来のデータ伝送だけでなく画像を利用したシステムも随所で見られ始めるなど、画像による遠隔監視が普及する目途がようやく立ち始めた。

この多様に変革しつつあるリモート監視市場を詳細にレポートした。

### <市場のまとめ>

1. リモート関連市場全体 03年2909億円 06年3170億円予測(対03年比109%)

リモート関連市場全体は堅調に拡大している。GPS(全地球測位システム)パケットデータ通信を活用したシステム、サービスが充実してきており、ユーザーの信頼も大幅に向上していることが要因として大きい。こうした技術により、ユーザーは簡易に設置できるうえ監視範囲の拡大を図ることが可能となった。IP通信網の整備が進んだうえ、このような無線技術の進展はこれまで手の届かなかった部分までも管理することが出来るようになった。

2. 映像系ユニット市場 03年97億円 06年129億円予測(対03年比133%)

この市場は、リモート監視市場全体から見ればまだ小さいものの、大きく期待される分野である。特にWebカメラが03年は75%増と好調な伸びを見せており、今後もこの分野を牽引し中心的な存在となるであろう。

Webカメラ 03年35億円 06年60億円予測(対03年比171%)

この市場は発展段階にあり、今後も確実に需要増加が予測される。主な利用用途は状況監視などのモニタリングであるが今後は安心、安全をキーワードに防犯用途でもさらに期待がかかる。8月の警察庁発表データによると犯罪件数(刑法犯)は96年から02年にかけて約100万件増え、約280万件となっている。そういった流れを引き止めるべく、防犯に対する映像監視への期待は大きい。また、近年のブロードバンドへのシフトにより、映像・画像を容易に扱えるようになり、通信コストの面からも導入への環境が整って来ている。さらに、家庭向けの利用が本格化すれば、市場規模は上記の予測を上回る可能性を十分に秘めている。Webカメラで注目される新技術は、メガピクセルへの高画質化、セキュリティ強化につながるIPv6対応、実用度を高める動態感知作動、音声機能の装備などが挙げられる。

3. データ伝送系ユニット市場 03年615億円 06年653億円予測(対03年比106%)

この市場はリモート監視市場の中核分野である。インフラ系のガスメータなど、飽和状態に近い市場はあるものの、それ故に付加価値を高めたいとする意向が強く、リモート監視にかかる期待も大きい。さらにトレンド製品となるGPS、Dopa網接続端末など魅力のある製品も多く、注目度は高い。

Dopa: NTTドコモグループが自社のデジタル携帯電話網で提供しているデータ通信サービス。パケット通信方式を採用1997年に東京都内の一部でサービスを開始し、現在は一部の離島を除くサービスエリアほぼ全域で利用可能。同社のiモードサービスはDoPaと同じパケット通信サービスを使用して提供されている。

4. 汎用システム/ソフト市場 03年594億円 06年632億円予測(対03年比106%)

この分野はその汎用性の高さから、さまざまな分野での利用が想定され、全体としては微増傾向。汎用リモート監視システムなどのFA/PA(工場・プラント向けオートメーション)などでの採用が目立つ。GIS(地理情報システム)は官需中心であるが、民間需要の掘り起こしが不可欠となっている。

5. リモート監視サービス市場 03年1602億円 06年1757億円予測(対03年比110%)

リモート監視サービス市場は、ビル向け、家庭向け、商業用途向け、産業向け、その他、の5つの分野に分けた。

(1) ビル向けリモート監視 03年1111億円 06年1142億円予測(対03年比103%)

ビル向け、受電設備向け、コージェネシステム向けに分けてとらえた。その中で最もリモート監視が進んでいるのがビル向けの領域であり、その範囲も防犯・防災用途から各機器の監視まで幅広い。ビル内監視においては、中規模ビル以上では、監視カメラの設置は一般的であるが、リモートで映像を伝送しているケースは少ない。今後省人化してビル内に管理室を設けない場合には、映像を伝送するケースが考えられ、ネットワークカメラの需要先としても期待される。

(2) 家庭向けリモート監視 03年 437億円 06年 539億円予測(対03年比123%)

家庭向けの防犯・防災のリモート監視ニーズはシステムとしてすでに普及が進んでおり、今後さらに市場は拡大する。警備会社などのサービス業者が提供するシステムと、機器を購入して自主管理を行なうシステムに大別されていたが、最近では、システムの形態も多様化している。携帯電話と連携したシステムなども相次いで製品化され、ユーザーの利便性を高める方向にある。LPガス、都市ガスの遠隔検診では、セキュリティサービスを付加して家電製品のリモート制御などホームオートメーション的なサービスを行っているところも見られる。

家庭向けリモート監視で最も大きな変革は、デジタル家電の登場によって、家電リモート監視の領域が確立されつつあることである。そのシナリオは次のとおり。まず必要性の高い防犯を実現させる機能を備えたホームサーバを使用してもらう。その後、家電製品の買い替えごとにサーバメーカーのネットワーク家電に切り替えを図る。このようなシナリオで本来の家電ビジネスを中期的に拡大することを目的としているが、まだ家電機器をリモート制御するニーズが明確ではない。そのためまず必要性の高い防犯を前面に出す展開となっている。今後、既存のホームセキュリティとの共存/競合が予測され、専門的なホームセキュリティに対していかに優位性を確保するかが課題となる。

(3) 商業用途向けリモート監視 03年 40億円 06年 52億円予測(対03年比130%)

自動販売機、自転車駐輪場、駐車場などキャッシュを扱う分野が多く個別の機器ごとの売り上げ管理が重要となる。機器の故障は直接売り上げに影響を与えるため、故障管理は必須である。無人であることからセキュリティの向上が急がれ、カメラなどによる状況監視も重要となって来ている。

自販機では、現在のところパケット通信を利用したデータ伝送のリアルタイム監視が主流である。今後の利用方法として監視カメラ、インターフォンなどによる映像監視や携帯電話を利用したカード決済など更なるサービスの追及が試みられている。駐車場サービスは、最近、不正駐車による収益悪化が問題となっており、カメラ監視の需要が高まっている。駐車場の収益性を左右する稼働率をあげるため、IT化、機械化を活用した事例が今後増えてくるであろう。

(4) 産業向けリモート監視 03年 7億円 06年 11億円予測(対03年比157%)

この分野は工場向け・プラント向け、農業向け・物流拠点向けの4市場に分けてみた。工場・プラントについては、いずれも機器単独のリモート監視となり、第三者に委託するケースは少ない。ただし、機器によるリモート監視は今後多くの採用が予想され市場は拡大するが、機器の延長上に位置づけられることから、如何に有償のサービスとして認めてもらうかが課題となる。最近ではトラブルの原因究明をカメラによる画像分析で行なうようになっており、映像情報のニーズ動向にも注目される点が見受けられる。

(5) その他リモート監視 03年 8億円 06年 12億円予測(対03年比149%)

貯蔵タンク、工事現場、車両運行などの分野で採用されている。特に、車両運行監視については、GPS、パケット通信などトレンド技術の進展に伴い、それら技術を利用したシステム/サービスが急激に広がっている。更にその他の分野でのリモート監視システム/サービスでも併用されるケースが多いことから、今後最も期待される分野の一つであることは間違いない。

<調査報告書の構成>

A. 総括編では、リモート監視サービス/ASP(アプリケーションサービスプロバイダー)市場・汎用システム市場・汎用ソフト市場の動向について総合的に集計および分析し、今後のリモート監視市場の方向性を明確化した。

B. サービス/ASP市場編では、注目されるリモート監視サービス/ASP市場についてベ-シックデータを基にそのマーケット構造および業界動向を詳細に分析した。

C. 汎用ハード市場編、D. 汎用システム/ソフト市場では、リモート監視市場に関連するハード・システム/ソフト市場について、ベ-シックデータを基に、そのマーケット構造および業界動向を詳細に分析した。

<調査方法>

弊社専門調査員による対象企業および関連企業・団体などへの面接取材による情報収集、および各種公的データ、既存刊行資料を参考にして分析した。

・実施時期は、2004年6月～8月

以上

タイトル : 「2004リモート監視関連市場徹底総調査」  
発行日 : 2004年8月25日  
体裁 : A4判 238頁  
価格 : 97,000円(税込み101,850円)  
調査・編集 : 富士経済 大阪マーケティング本部 第1事業部

TEL 06-6228-2020(代) FAX 06-6228-2030  
発行所 : 株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル  
TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165  
e-mail: koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>